

# 平成31年度から令和3年度までの実施施策に係る政策評価書

(防衛省31～3-②)

施策名	従来の領域における能力の強化					
施策の概要	領域横断作戦の中で、宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力と一体となって、航空機、艦艇、ミサイル等による攻撃に効果的に対処するための能力を強化する。					
達成すべき目標	①海空領域における能力の強化 ②スタンドオフ防衛能力の強化 ③総合ミサイル防空能力の強化 ④機動・展開能力の強化 ⑤一層厳しさを増す我が国周辺の安全保障環境に対応した自衛隊の運用・取組み					
施策の予算額・執行額等	区分	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	0	0	0	0
			<3,548,029>	<3,656,378>	<3,607,103>	<3,622,282>
		補正予算(b)		0	0	
		繰越し等(c)		<357,274>	<668,569>	
合計(a+b+c)		0	0	0		
執行額(百万円)		0	0	0		
		<3,906,930>	<4,267,006>			

※ 下段<>外書きは、複数の政策にまたがる予算及び複数の政策にまたがると整理できる予算であり、総額の「内数」で掲記している。  
 ※ 令和2年度に現政策体系に応じた予算の組み替えを実施済であるため、平成31年度については予算額のみ記載している。

施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	中期防衛力整備計画(平成31年度～平成35年度) Ⅲ-1-(2)従来の領域における能力の強化
-------------------------------	---

測定指標	1. 海空領域における能力の強化						
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	哨戒艦の整備(4隻)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
						4隻	④
	予算要求値(累積値)						
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	固定翼哨戒機(P-1)の整備(12機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
			3機(3機)	6機(9機)		12機	③
	予算要求値(累積値)		3機(3機)	6機(9機)	- (9機)		
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	哨戒ヘリコプター(SH-60K/K(能力向上型))の整備(13機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
			7機(7機)	- (7機)		13機	③
	予算要求値(累積値)		7機(7機)	- (7機)	- (7機)		
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	艦載型無人機の整備(3機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
					3機	④	
予算要求値(累積値)							
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
早期警戒機(E-2D)の整備(9機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
	9機(9機)	- (9機)	- (9機)		9機	②	
予算要求値(累積値)	9機(9機)	- (9機)	- (9機)	- (9機)			

測定指標	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
		平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
滞空型無人機の整備(グローバルホーク)(1機)	平成31年度			3年度	4年度	5年度	達成
	1機(1機)	1機(1機)	-(1機)	-(1機)		1機	②
	予算要求値(累積値)	1機(1機)	-(1機)	-(1機)	-(1機)		
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
戦闘機(F-35A)の整備(45機)※戦闘機(STOVL機)を含む	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
6機(6機)	9機(15機)	6機(21機)		45機	③		
予算要求値(累積値)	6機(6機)	9機(15機)	6機(21機)	12機(33機)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
戦闘機(F-15)の能力向上(20機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
2機(2機)	-(2機)	-(2機)		20機	③		
予算要求値(累積値)	2機(2機)	-(2機)	-(2機)	-(2機)			
その他の実績	該当期間は初号機(2機)に係る改修に着手した上で、設計、搭載装備品及び専用治工具の製造、施設整備等の改修に必要な準備を計画的に進めており、目標期間内における目標の達成に向けて事業は確実に進捗している。						
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
中距離地对空誘導弾の部隊整備(5個中隊)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
1個中隊(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)	1個中隊(3個中隊)		5個中隊	③		
予算要求値(累積値)	1個中隊(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)	1個中隊(3個中隊)	1個中隊(4個中隊)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
地对艦誘導弾の部隊整備(3個中隊)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
1個中隊(1個中隊)	-(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)		3個中隊	③		
予算要求値(累積値)	1個中隊(1個中隊)	-(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)	1個中隊(3個中隊)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
地对空誘導弾ペトリオットの能力向上(PAC-3 MSE)(4個群)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
		4個群(4個群)	-(4個群)		4個群	②	
予算要求値(累積値)		4個群(4個群)	-(4個群)	-(4個群)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
空中給油・輸送機(KC-46A)の整備(4機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
		4機(4機)	-(4機)		4機	②	
予算要求値(累積値)		4機(4機)	-(4機)	-(4機)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
新型護衛艦(FFM)の整備(10隻)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
2隻(2隻)	2隻(4隻)	2隻(6隻)		10隻	③		
予算要求値(累積値)	2隻(2隻)	2隻(4隻)	2隻(6隻)	2隻(8隻)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
潜水艦の整備(5隻)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
1隻(1隻)	1隻(2隻)	1隻(3隻)		5隻	③		
予算要求値(累積値)	1隻(1隻)	1隻(2隻)	1隻(3隻)	1隻(4隻)			
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成	
掃海・輸送ヘリコプター(MCH-101)の整備(1機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度		
				1機	③		
予算要求値(累積値)				1機(1機)			

	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
測定指標	<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●陸上自衛隊においては、平成31年度から令和3年度まで以下のとおり予算計上等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中距離地对空誘導弾部隊(3個中隊)の整備</li> <li>・地对艦誘導弾部隊(2個中隊)の整備</li> <li>・令和4年度以降についても、下記の事業等を計画している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢対空・対艦能力の向上のため、中距離地对空誘導弾及び地对艦誘導弾の部隊を整備</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●海上自衛隊においては、平成31年度から令和3年度まで以下のとおり予算計上等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定翼哨戒機(P-3C)、回転翼哨戒機(SH-60J及びSH-60K)、画像情報収集機(OP-3C)及び電波情報収集機(EP-3)の機齢延伸</li> <li>・哨戒ヘリコプター(SH-60K)の救難仕様改修</li> <li>・故障又は定期修理時期に達した航空機用機器等の修理を実施した。</li> <li>・部隊で実施する整備及び修理会社で実施する修理等に必要な部品を調達した。</li> <li>・機体等のオーバーホール用官給品及び部隊維持用の部品を調達した。</li> <li>・航空機の修理等に必要な材料等の購入等により、航空機の可動率の維持・向上を図った。</li> <li>・固定翼哨戒機(P-1)の円滑な運用を図るために必要なP-1用整備用器材を整備した。</li> <li>・護衛艦、潜水艦、音響測定艦、補給艦等の艦齢延伸</li> <li>・護衛艦の短SAMシステムの能力向上</li> <li>・CIWS(高性能20mm機関砲)の近代化改修</li> <li>・護衛艦の対潜能力向上</li> <li>・短SAMシステム3型等の計算機能力の向上</li> <li>・護衛艦の戦闘指揮システムの近代化改修及び電子計算機等の更新</li> <li>・潜水艦の戦闘指揮システムの近代化改修</li> <li>・潜水艦救難艦の改修</li> <li>・護衛艦及び潜水艦の対潜能力を維持するため、ソーナー用ラバーウィンドウの換装を実施した。</li> <li>・艦艇の製造中止部品対策のため、代替品の製造及び機器の改修を実施した。</li> <li>・イージス装置の機能維持及び即応性向上に資する国内整備態勢の整備のため、不具合情報の収集、整備取扱説明所等の改訂等を実施した。</li> <li>・潜水艦救難態勢を維持するため、深海救難艇の動力である主電池の調達及び換装、電池槽修理等を行った。</li> <li>・BMDイージス艦8隻体制を確立するため、現有レーダー、イージスプログラムソフトウェア及び垂直発射装置を弾道ミサイル対応型に改造するために必要な器材及び技術支援等の調達を行った。</li> <li>・海中の音響情報収集を行うため、高性能音響測定器材等の整備を行った。</li> <li>・令和4年度以降についても、下記の事業等を計画している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢艦艇及び航空機の増勢・体制維持のため、引き続き、艦齢延伸及び機齢延伸措置の実施</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●航空自衛隊においては、平成31年度から令和3年度まで以下の通り予算計上等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上指揮所及び早期警戒管制機等と戦闘機との間における戦術情報の共有化及び戦域における状況認識能力の向上を図るため、戦闘機(F-15)用端末装置を1式搭載した。</li> <li>・戦闘機(F-2)の能力向上</li> <li>・令和4年度以降についても、下記の事業等を計画している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢戦闘機(F-2)の能力向上</li> <li>➢基地防空用地対空誘導弾(基地防空用SAM)の取得</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	その他の装備品等(延命処置・機能向上を含む。)(関連シート②、③、⑩)	③
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年3月、太平洋側の広大な空域を含む我が国周辺空域における防空態勢の充実や効率的な運用を図るため、警戒航空隊を警戒航空団に格上げし新編した。</li> </ul>	航空警戒管制部隊への1個警戒航空団の新編	②
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●戦闘機部隊等が各種作戦を広域かつ持続的に遂行するに当たり、空中給油・輸送能力を強化するため、令和2年12月、航空自衛隊美保基地に第405飛行隊を新編した。</li> </ul>	空中給油・輸送部隊1個飛行隊の新編	②
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和3年3月(令和2年度末)、航空自衛隊三沢基地に臨時偵察航空隊を約70名規模で新編した。</li> </ul>	無人機部隊1個飛行隊の新編	②
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実績なし</li> </ul>	護衛艦部隊及び掃海艦艇部隊から構成される水上艦艇部隊の新編	④
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実績なし</li> </ul>	哨戒艦部隊の新編	④	

2. スタンドオフ防衛能力の強化

目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
戦闘機(F-15)の能力向上(20機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
	2機(2機)	-(2機)	-(2機)			
予算要求値(累積値)	2機(2機)	-(2機)	-(2機)	-(2機)		
その他の実績	該当期間は初号機(2機)に係る改修に着手した上で、設計、搭載装備品及び専用治工具の製造、施設整備等の改修に必要な準備を計画的に進めており、目標期間内における目標の達成に向けて事業は確実に進捗している。					③
施策の進捗状況(実績)					目標	達成
【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●我が国への侵攻を試みる艦艇、上陸部隊等に対して、自衛隊員の安全を確保しつつ、侵攻を効果的に阻止するため、相手方の脅威圏の外から対処可能な戦闘機(F-35A)に搭載するスタンド・オフ・ミサイル(JSM)の取得経費を平成31年度に約79億円、令和2年度に約136億円、令和3年度に約149億円を計上した。					その他の装備品等(延命処置・機能向上を含む。)(関連シート②、③及び⑩)	③
施策の進捗状況(実績)					目標	達成
【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●平成31年度、令和2年度及び令和3年度に、島嶼防衛用高速滑空弾の研究試作(その1)、研究試作(その2)、研究試作(その3)及び研究試作(その4)を実施した。 ●島嶼防衛用高速滑空弾の研究試作(その4)を令和3年12月8日に約101億円で契約した。 ●12式地对艦誘導弾能力向上型の試作(その1)を令和3年7月9日に約334億円で契約した。					島嶼防衛用高速滑空弾等の研究開発	③

3. 総合ミサイル防空能力の強化

目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)の整備(2基)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
	-	-	-			
予算要求値(累積値)	-	-	-	-		評価対象外
「評価対象外」とした理由	・本目標については、令和2年6月に、迎撃ミサイルの飛行経路をコントロールし、演習場内又は海上にブースターを確実に落下させるには、システム全体の大幅な改修が必要となり、相当のコストと期間を要することが判明し、結果として、地元の皆様に約束していたことが実現できなくなったことから、イージス・アショアの配備プロセスを停止する決定を公表した。その後、代替案の検討において、適当な代替地がない一方、イージス・アショアの構成部品を洋上プラットフォームに搭載する技術的実現性が確認できたことから、令和2年12月には、イージス・アショアに替えて、イージス・システム搭載艦2隻を整備することを閣議決定し、整備に向けて取り組むこととされたため、評価対象外とした。					
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
地对空誘導弾ペトリオットの能力向上(PAC-3 MSE)(4個群)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
		4個群(4個群)	-(4個群)			
予算要求値(累積値)		4個群(4個群)	-(4個群)	-(4個群)		②
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
中距離地对空誘導弾の部隊整備(5個中隊)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
	1個中隊(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)	1個中隊(3個中隊)			
予算要求値(累積値)	1個中隊(1個中隊)	1個中隊(2個中隊)	1個中隊(3個中隊)	1個中隊(4個中隊)		③
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
機動戦闘車の整備(134両)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
	22両(22両)	33両(55両)	22両(77両)			
予算要求値(累積値)	22両(22両)	33両(55両)	22両(77両)	33両(110両)		③
目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
輸送ヘリコプター(CH-47JA)の整備(3機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
		3機(3機)	-(3機)			
予算要求値(累積値)		3機(3機)	-(3機)	-(3機)		②

測定指標

		施策の進捗状況(実績)			目標	達成	
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●経空脅威に対して、統合運用により効果的に対処するため、対空戦闘指揮統制システム2式を取得した。 ●平成31年度に、SM-3ブロックIIA及びSM-3ブロックIBの取得のための予算(約717億円)を計上した。 ●令和2年度に、SM-3ブロックIIAの取得経費(約301億円)を計上した。 ●「あたご」型イージス艦2隻にSM-3ブロックIIAを発射できるようにするための改修に関する経費として平成31年度に約75億円を、令和2年度に約15億円を、令和3年度に約2億円を計上した。 ●平成31年度に、PAC-3ミサイルの再保証により、耐用命数を迎える部品を交換するとともに、ミサイル全体の点検を実施し、所要のPAC-3ミサイルを確保するための予算(約341億円)を計上した。 ●弾道ミサイル攻撃から我が国を多層的かつ持続的に防護し得る体制を強化するためのイージス・システム搭載護衛艦の増勢に伴う体制構築のため、27DDG及び28DDGを取得した。 ●令和3年度に、弾道ミサイル防衛と巡航ミサイルや航空機への対処の双方に対応可能で、かつ射程が延伸されているPAC-3MSEミサイル取得に係る予算(約356億円)を計上した。 ●O3式中距離地对空誘導弾(改)を3個中隊取得した。 ●陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)については、令和2年12月18日の閣議決定において、陸上配備型イージス・システムに替えて、イージス・システム搭載艦2隻を整備することとなった。同艦に付加する機能、設計上の工夫等を含む詳細については、引き続き検討を実施し、必要な措置を講ずる。			その他の装備品等(延命処置・機能向上を含む。)(関連シート②、③、⑩)	③	
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●平成31年度は、固定式警戒管制レーダ装置の試作(その1)を実施し、試作(その2)に着手した。 ●令和2年度以降、引き続き、固定式警戒管制レーダ装置を開発中である。			固定式警戒管制レーダー等の研究開発	③	
4. 機動・展開能力の強化							
測定指標	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	輸送機(C-2)の整備(5機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
		2機(2機)	-(2機)	2機(4機)		5機	③
	予算要求値(累積値)	2機(2機)	-(2機)	2機(4機)	-(4機)		
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	機動戦闘車の整備(134両)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
		22両(22両)	33両(55両)	22両(77両)		134両	③
	予算要求値(累積値)	22両(22両)	33両(55両)	22両(77両)	33両(110両)		
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	輸送ヘリコプター(CH-47JA)の整備(3機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
			3機(3機)	-(3機)		3機	②
	予算要求値(累積値)		3機(3機)	-(3機)	-(3機)		
	目標	実績値(累積値)			参考値	目標値	達成
	新多用途ヘリコプターの導入(34機)	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	
		6機(6機)	-(6機)	20機(26機)		34機	③
予算要求値(累積値)	6機(6機)	-(6機)	20機(26機)	-(26機)			
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●陸上自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・機動戦闘車(77両)を整備した。 ・輸送ヘリコプター(CH-47JA)(3機)を整備した。 ・新多用途ヘリコプター(UH-2)(26機)を整備した。 ・19式装輪自走155mmリゅう弾砲(21両)を整備した。  ●海上自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・哨戒ヘリコプター(SH-60K)搭載電子機器整備用構成品の整備を実施した。 ・哨戒ヘリコプター(SH-60K)の補用エンジンを整備した。 ・機体定期修理及びエンジンオーバーホールを実施した。 ・機能部品を再使用可能な状態とするための役割を実施した。 ・各種作戦の効果的な遂行による周辺海域の防衛、海上交通の安全確保等を実施し得るようになるため、搭載武器等を着実に整備し能力を発揮し得るような態勢を維持・構築した。 ・海上自衛隊における部隊運用機能の向上を図るため、補給処、造補所、部隊等の運営、施設機械等の維持、艦船の行動、爆発兵器類の処理、弾薬類の維持等に必要な材料等の購入等を実施した。  ●航空自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・平成31年度は輸送機(C-2)(2機)の取得のための予算(約453億円)を計上した。 ・令和3年度は輸送機(C-2)(2機)の取得のための予算(約446億円(エンジン2式を含まない。))を計上した。  ●防衛大学校においてより効率的な訓練及び訓練実施時の安全性を確保するため、各種船舶の機能維持に必要な定期検査及び年次検査を行い、学生が訓練で使用する船舶の消耗品及び整備用品を取得した。			その他の装備品等(延命処置・機能向上を含む。)(関連シート②、③及び⑩)	③	
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●陸上自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・機動戦闘車(77両)を整備した。 ・輸送ヘリコプター(CH-47JA)(3機)を整備した。 ・新多用途ヘリコプター(UH-2)(26機)を整備した。 ・19式装輪自走155mmリゅう弾砲(21両)を整備した。  ●海上自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・哨戒ヘリコプター(SH-60K)搭載電子機器整備用構成品の整備を実施した。 ・哨戒ヘリコプター(SH-60K)の補用エンジンを整備した。 ・機体定期修理及びエンジンオーバーホールを実施した。 ・機能部品を再使用可能な状態とするための役割を実施した。 ・各種作戦の効果的な遂行による周辺海域の防衛、海上交通の安全確保等を実施し得るようになるため、搭載武器等を着実に整備し能力を発揮し得るような態勢を維持・構築した。 ・海上自衛隊における部隊運用機能の向上を図るため、補給処、造補所、部隊等の運営、施設機械等の維持、艦船の行動、爆発兵器類の処理、弾薬類の維持等に必要な材料等の購入等を実施した。  ●航空自衛隊においては、以下の項目を実施した。 ・平成31年度は輸送機(C-2)(2機)の取得のための予算(約453億円)を計上した。 ・令和3年度は輸送機(C-2)(2機)の取得のための予算(約446億円(エンジン2式を含まない。))を計上した。  ●防衛大学校においてより効率的な訓練及び訓練実施時の安全性を確保するため、各種船舶の機能維持に必要な定期検査及び年次検査を行い、学生が訓練で使用する船舶の消耗品及び整備用品を取得した。			その他の装備品等(延命処置・機能向上を含む。)(関連シート②、③及び⑩)	③	

		施策の進捗状況(実績)	目標	達成
測定指標		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●訓練に伴う部隊輸送のため、「ナッチャンWorld」及び「はくおう」を活用した。 ●災害派遣に伴う部隊輸送等のため、「ナッチャンWorld」及び「はくおう」を活用した。 ○平成31年度 ・東日本台風(台風第19号)に対する災害派遣に伴う部隊輸送のため、「ナッチャンWorld」及び「はくおう」を活用 ・令和2年2月新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための災害派遣において、現地で支援活動を行う自衛隊員の活動拠点・宿泊施設等として、「はくおう」を活用した。 ○令和2年度 ・令和2年7月豪雨に対する災害派遣に伴う部隊輸送のため、「はくおう」を活用した。	民間事業者の資金や知見を活用した船舶による自衛隊の輸送力と連携した大規模輸送の効率的実施	③
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●島嶼防衛にあたる水陸機動団の関連施設整備に係る経費として、平成31年度予算及び補正予算に約5.1億円、令和3年度補正予算に約1.2億円を計上し、施設整備を実施している。 ●令和4年3月、陸上自衛隊名寄駐屯地に第3即応機動連隊を新編	即応機動連隊及び水陸機動連隊の新編等	③
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●平成31年度において、陸上自衛隊宮古島駐屯地に中距離地对空誘導弾部隊及び地对艦誘導弾部隊を配備している。 ●南西地域への陸自警備部隊等の配備に係る関連施設整備の経費として、平成31年度予算に約197.3億円、令和2年度予算及び補正予算に約259.1億円、令和3年度予算及び補正予算に約431.6億円を計上し、施設整備を実施している。	南西地域島嶼部において初動を担う警備部隊の新編等	③
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●令和5年度新編に向け、中型級船舶1隻、小型級船舶1隻分の経費として令和4年度予算に約102億円を計上した。	海上輸送部隊1個群の新編	③
	5. 一層厳しさを増す我が国周辺の安全保障環境に対応した自衛隊の運用・取組み			
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●防衛省・自衛隊としては、我が国周辺海域で艦艇や航空機による常時継続的な情報収集及び警戒監視を行っており、警戒監視により得られた情報については、海上保安庁を含む関係省庁にも共有し、連携の強化も図りつつ、周辺海域の安全確保に万全を期した。 また、北朝鮮が密輸によって国連安保理決議の制裁逃れを図っている中、米海軍等の関係国と瀬取りに関する情報を共有し、警戒監視活動を強め、国連安保理決議の実行性確保に貢献した。	周辺海域の安全確保	②
		<b>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</b> ●平成31年度947回、令和2年度725回、令和3年度1004回の緊急発進を実施した。このような中で、戦闘機、早期警戒機(E-2C)及び早期警戒管制機(E-767)を効果的に運用し、領空侵犯を未然に防ぐべく、所要の対処態勢を維持するとともに、警戒監視に万全を期している。	領空侵犯に備えた警戒と緊急発進(スクランブル)	②

		(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
評価結果	目標達成度合いの測定結果 (判断根拠)		
		<測定指標1> ●航空自衛隊警戒航空隊を警戒航空団に格上げする等、目標としていた「航空警戒管制部隊への1個警戒航空団の新編」等を達成した。 また、固定翼哨戒機(P-1)の整備等、所要の経費を計上し、計画的に実施しており、目標に向かって着実に進展している。	
		<測定指標2> ●島嶼防衛用高速滑空弾の研究試作を実施する等、所要の経費を計上し、計画的に実施しており、目標に向かって着実に進展している。	
		<測定指標3> ●地对空誘導弾ペトリオットの能力向上(PAC3-MSE)等、目標を達成した。 また、固定式警戒管制レーダの開発等、所要の経費を計上し、計画的に実施しており、目標に向かって着実に進展している。	
		<測定指標4> ●輸送ヘリコプター(CH-47JA)の整備を行い、目標を達成した。 また、陸上自衛隊宮古島駐屯地に部隊を配備する等、計画的に実施しており、目標に向かって着実に進展している。	
		<測定指標5> ●我が国周辺海域で艦艇や航空機による常時継続的な情報収集及び警戒監視を行う等、目標としていた「周辺海域の安全確保」等を達成した。  以上のことから、相当程度進展ありと判断した。	

評価結果	施策の分析	<p>&lt;測定指標1&gt;  ●各目標に対して、以下のとおり、装備品の整備を着実に実施し、施策の進捗に寄与  ・早期警戒機(E-2D)の整備 9機の整備による目標達成  ・滞空型無人機の整備(グローバルホーク)の整備 1機の整備による目標達成  ・地对空誘導弾ベトリオットの能力向上(PAC-3 MSE) 4個群の能力向上の実施による目標達成  ・空中給油・輸送機(KC-46A)の整備 4機の整備による目標達成  ・その他、新型護衛艦(FFM)の整備 10隻中6隻を取得する等、相当程度進展</p> <p>&lt;測定指標2&gt;  ●各目標に対して、以下のとおり、装備品の整備を着実に実施し、施策の進捗に寄与  ・スタンド・オフ・ミサイル(JSM)の取得経費の計上  ・戦闘機(F-15)の能力向上の実施</p> <p>&lt;測定指標3&gt;  ●各目標に対して、以下のとおり、装備品の整備を着実に実施し、施策の進捗に寄与  ・地对空誘導弾ベトリオットの能力向上(PAC-3 MSE) 4個群の能力向上の実施による目標達成  ・中距離地对空誘導弾の部隊整備 5個中隊中4個中隊の整備実施見込みによる相当程度の進展  ・陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)の整備 イージス・システム搭載艦2隻を整備することを令和2年12月18日に閣議決定。運用構想の詳細、搭載機能、艦の設計等についての検討の実施</p> <p>&lt;測定指標4&gt;  ●各目標に対して、以下のとおり、装備品の整備を着実に実施し、施策の進捗に寄与  ・輸送ヘリコプター(CH-47J)の整備 3機の整備による目標達成  ・輸送機(C-2)の整備 5機中4機の整備の実施等、相当程度進展</p> <p>&lt;測定指標5&gt;  ●各目標に対して、以下の取組により施策の推進に寄与 ※()書きは目標  (周辺海域の安全確保)  ・我が国周辺海域での艦艇及び航空機による常時継続的な情報収集及び警戒監視の実施並びに得られた情報の関係省庁への共有による周辺海域における安全確保の目標達成  (領空侵犯に備えた警戒と緊急発進(スクランブル))  ・戦闘機、早期警戒機(E-2C)及び早期警戒管制機(E-767)の効果的な運用、領空侵犯を未然に防ぐための所要の対処態勢の維持並びに警戒監視の実施による目標達成</p>
	次期目標等への反映の方向性	<p>①海空領域における能力の強化  平素から領海・領空とその周辺海空域において情報収集及び警戒監視を行っており、引き続き、艦艇・航空機等を柔軟に運用し、わが国周辺における各種事態に即応できる態勢維持に取り組んでいく。</p> <p>②スタンドオフ防衛能力の強化  わが国へ侵攻を試みる艦艇などを効果的に阻止するため、相手方の脅威圏の外から対処可能なスタンド・オフ・ミサイルの整備を行い、引き続き、スタンド・オフ防衛能力の強化に取り組んでいく。</p> <p>③総合ミサイル防空能力の強化  多弾頭・機動弾道を搭載する弾道ミサイル、ステルス化した航空機等、わが国に向けて飛来する経空脅威に対し、ミサイル防衛に係る各種装備品に加え、従来、各自衛隊で個別に運用してきた防空のための各種装備品も併せ、一体的に運用する体制の確立など、引き続き、多数の複合的な経空脅威についても同時対処できる総合ミサイル防空能力の強化に取り組んでいく。</p> <p>④機動・展開能力の強化  平素から常時継続的に部隊が活動するとともに、状況に応じた機動・展開を行うため、引き続き、水陸両用作戦能力等の強化や島嶼部の特性に応じた統合輸送能力の強化等に取り組んでいく。</p> <p>⑤一層厳しさを増す我が国周辺の安全保障環境に対応した自衛隊の運用・取組み  わが国周辺において、広域にわたり常時継続的な情報収集・警戒監視・偵察活動を行い、領空侵犯や領海侵入といったわが国の主権を侵害する行為に対し、警察機関などとも連携し、即時に適切な措置を講じる等、引き続き、各種事態に即応できる態勢維持に取り組んでいく。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	<p>○ 測定指標3「総合ミサイル防空能力の強化」における目標「陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)の整備(2基)」については、令和2年6月にその配備プロセスの停止と同年12月の閣議決定により、イージス・アショアに替えてイージス・システム搭載艦の整備を行うこととされたことから、「評価対象外」とすることは適切である。</p> <p>○ 施策は順調に進展しており、特に意見なし。</p>
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<p>○ 防衛省ホームページ</p> <p>○ 防衛白書(令和元年～3年)</p> <p>○ 我が国の防衛と予算(平成31年～令和3年)</p>

担当部局名	防衛政策局、整備計画局及び防衛装備庁	政策評価実施時期	令和4年6月
-------	--------------------	----------	--------

※ 「測定指標の達成欄」及び「評価結果」の「(各行政機関共通区分)欄」については、達成状況を以下の5段階区分の数字を記入。

①目標超過達成、②目標達成、③相当程度進展あり、④進展が大きくない、⑤目標に向かっていない